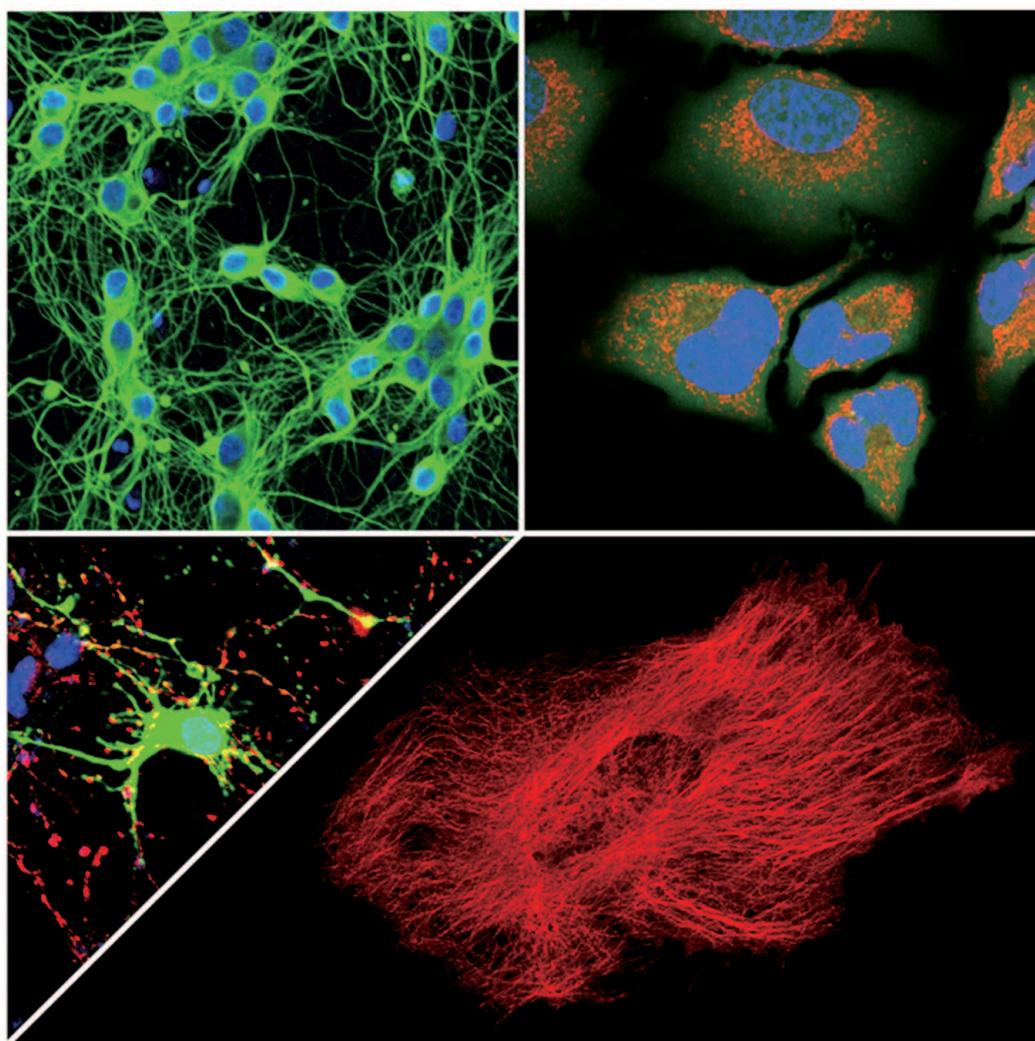


理工学部報



第67号

2018年9月20日



慶應義塾大学

コラム	2
サイバロンーバリアを越えるロボット技術ー	石上 玄也
巻頭メッセージ	3
理工学部80周年、藤原銀次郎翁生誕150周年	理工学部長 伊藤 公平
常任理事メッセージ	4
理工学部・理工学研究科への期待	青山藤詞郎
TOPICS	5
理工学部の国際交流	竹村研治郎
理工学部ホームページの全面リニューアルについて	深淵 康二
IBM Q Network Hub @ Keio University の開設と今後の展望	山本 直樹
慶應義塾先端科学技術研究センター (KLL) と産業との関係	山中 直明
教育への新しい風／教員からのメッセージ	9
物理情報工学科／基礎理工学専攻	清水 智子
システムデザイン工学科／総合デザイン工学専攻	野崎 貴裕
管理工学科／開放環境科学専攻	栗原 聡
理工学部の近況	10
各学科主任・日吉主任・各専攻長他からのメッセージ	
矢上賞	13
同窓会研究教育奨励基金による卒業生への表彰	
就職状況	14
最近の就職活動および就職状況について	今井 宏明
受賞人事	16
訃報	17
理工学コロキウム	18
光を止めることはできるのか	田邊 孝純
お知らせ	19
日吉は今「フランス語教育2.0」	
第19回矢上祭の開催について	
KEIO TECHNO-MALL 2018(第19回 慶應科学技術展) 開催について	20

※表紙は染色した細胞を蛍光イメージング法によって撮像したものです。左2枚の図は、神経細胞がネットワークを形成している様子で、緑色は細胞、青色は細胞核、赤色はシナプスを示しています。右上の図はがん細胞の細胞質(緑色)、細胞核(青色)、ミトコンドリア(赤色)、右下の図はがん細胞の細胞骨格分子を表しています。このように生体内の微小構造や分子動態を可視化することによって生命現象の解明を目指しています。

(生命情報学科 岡研究室／撮影者：訪問助教 山中 龍)

サイバロンーバリアを越えるロボット技術ー

機械工学科 石上玄也



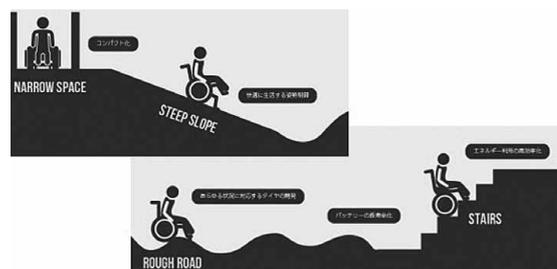
サイバロン (Cybathlon) と呼ばれる国際競技大会をご存知でしょうか。同大会は、ロボット工学の知見や技術を活用した車いすや義手、義足などを用いて、与えられた複数のタスクをこなし、そのタイムを競う大会です。

2018年2月3日、都内へ向かう目黒線に乗っているとき、「石上さん、隣いいかな?」と声をかけられました。見上げると(まさに文字通り、見上げるような)伊藤学部長が立っておられ、サイバロンの紹介ならびに慶應義塾大学理工学部として電動車いすの部門にチャレンジしませんか、という打診をいただきました。恥ずかしながら、私は同大会のことは知らなかったのですが、ロボット工学、特に不整地移動やフィールドロボティクスを専門としている私としては、タスクやシナリオの現実性、大会の規模、社会実装の可能性などもあいまって、ほぼ二つ返事で「やります。勝ちに行きます」とお答えしました。その後、2018年度から富田名誉教授をプロジェクトマネージャ、村上教授を特別アドバイザーとして、私はチームリーダを拝命し、さらに技術職員さんや学生さんを含めた理工学部サイバロンチームが発足しました。

電動車いす部門では、実際の社会生活を見据えた6つのタスクを達成しなければなりません。たとえば、複数の狭隘なボール間をスラローム走行できること、斜面を横断できること、そして、斜度20度のスロープや複数の階段を昇降できること、などです。いずれも通常の電動車いすではなかなか実現しがたいタスクばかりです。

これらのタスクは、卒業生や修了生の皆様が在籍に通った、日吉駅から矢上キャンパスまでの通学経路を思い出していただくにより現実味が帯びるかと思います。駅の改札を抜け、日吉の並木道あるいは綱島街道へのスロープ、多くの段差と階段、狭い道を行き交う人々や車、そして最後の矢上キャンパスへの急峻な坂道など。多数のバリアが存在するこのような経路を現在の電動車いすで走行することが如何に難しいか、容易に想像いただけるかと思います。

我々サイバロンチームは、「バリアを超えることが可能な電動車いす」をコンセプトとし、2019年5月の日本大会、2020年5月の国際大会での好成绩(優勝も含め)を目指しています。また、競技に勝つだけでなく、本開発を通して得られた知見や技術の実社会への展開を見越し、チーム一丸となって電動車いすの開発を推進しております。慶應義塾大学理工学部が発信する電動車いす为社会に展開され、レンタルサイクルと同様、日吉駅前にレンタルパーソナルモビリティとして配置されたあかつきには、ぜひご搭乗いただき矢上キャンパスへお越しください。



図：バリアを超える電動車いすのコンセプトイメージ

慶應義塾大学理工学部のウェブサイトは <https://www.st.keio.ac.jp/> です。

理工学部80周年、 藤原銀次郎翁生誕150周年

理工学部長 伊藤 公平



来年(2019年)は、理工学部80周年、藤原銀次郎翁生誕150周年です。75周年がつい先日の出来事に感じられますが、時の流れを超えるスピードで理工学部の教育と研究を発展させることが求められています。そこで、来年は理工学部の発展を実感いただく公開イベントを順次開催いたします。ぜひ理工学部ホームページでイベント情報を定期的にチェックし、気軽にご参加下さい。

公開イベントの4つの柱は、1) AI・高度プログラミング、2) 医工連携プロジェクト、3) 日吉スポーツ施設デザイン研修、4) 電動車いす開発と世界大会出場です。

1) AI・高度プログラミング環境の整備は、理工学部と慶應グローバルリサーチインスティテュート(KGRI)が共同で進めます。7学部3研究科が学ぶ日吉キャンパスに、全学部の塾生と教職員に開かれた「日吉AI・高度プログラミングルーム」を開設しました。研究におけるAI活用の推進に加え、メンバー企業の皆さまにメンターとして参加いただくことで、塾生レベルでの産学共同や起業を後押しします。ACM-ICPC国際大学対抗プログラミングコンテスト(1チーム3人で、数学やパズル問題を速く正確に解くプログラミング能力を競う大会)への出場希望者を募ったところ、学部をこえて60名ものプログラミング好き塾生が集まり、同ルームでのトレーニングをとおして12チームが国内予選に参加しました。様々なコンピュータサークルも同ルームに集まります。同様の施設を矢上にも設置し、高度AI・プログラミング能力を有する大学院生が中心となってAIセミナー・相談会を定期的実施し、メンバー企業との交流を進めます。AIの次世代アルゴリズムや装置を作る研究も理工学部では進んでいます。また理工学部が、米国IBMワトソン研究所が開発を続ける世界最高性能の量子コンピュータIBM Qにクラウドをとおして接続利用するHubに選ばれました。世界の大学でIBM Qに接続できるのは、MIT、Oxford、Melbourne、NC Stateと慶應理工のみです。AIに加えて量子ソフトウェアでもグローバルクラブの一員として研究開発を先導します。

2) 医工連携プロジェクトでは、慶應義塾の理工学部・医学部・薬学部・看護医療学部の協調に加えて、他大学医学部や病院との協働を進めています。高度医療と超成熟社会の発展のために、理工学部が有する科学技術力が欠かせません。2019年6月には理工学部の医工連携研究を広く一般にわかりやすく説明するシンポジウムを開催しますので是非ご参加ください。

3) 理工学部・理工学研究科とSFCには建築・空間デザインを学ぶ塾生が在籍し、彼(女)らが中心となり、体育研究所やシステムデザインマネジメント研究科の協力の仰ぎながら「日吉・下田・矢上地区スポーツ・レクリエーション施設統合デザイン研修」を進めています。日吉キャンパスを中心とした体育会・体育授業・レクリエーション施設の全体像を学生らしい自由な発想でデザインし、高度なコンピュータグラフィックスやミニチュア模型で提示するものです。あくまでも仮想的で実現を目指すものではありませんが、塾生の豊かな発想と作品の仕上げは皆様の御眼鏡にかなうことでしょう。2019年夏に日吉キャンパスでエキシビジョンを開催します。

4) あらゆるバリアを乗り越える電動車いすを、理工学部が誇るマニュファクチュアリングセンター(工場)技術職員と学生が中心となり、教員の指導のもとで開発します。そして2020年5月にチューリッヒで開催されるCybathlon(電動器具を用いた障害者のレース)に出場して、世界レベルに挑戦します。その前哨戦、電動車いすレース日本シリーズ@カルツかわさきが2019年5月5日に開催されます。そこで慶應理工車いすチームは優勝を目指します。この活動の最終目標は、身障者がどこへでも出かけられる実用的な電動車いすを開発することです。

慶應義塾大学理工学部の教育の特徴は、学部1年生から数学・物理・化学・生物・実験・語学・総合教育科目などの基礎強化を徹底することです。これら訓練の積み重ねが卒業研究という実学に結実します。一方、科学技術の急速な発展と社会の成熟化は、理工学部生が早い段階から発想力・実行力・協調力を鍛え、社会との接点を増やす必要性を高めています。80周年を契機とした理工学部生たちの自立的な活躍にどうかご期待ください。

理工学部・理工学研究科への期待

常任理事 青山 藤詞郎



昨年5月末に常任理事に就任して以来、間もなく1年3カ月が経過いたします。この間、慶應義塾における教育と研究の主管として、従来から進められている様々な取り組みについてこれを把握し、さらに将来の教育研究環境の充実へ向けた新たな構想の立案とその具体化に注力してまいりました。

文部科学省の競争的資金を獲得し、7年前にスタートした慶應義塾博士課程教育リーディングプログラムは、今年の3月にその支援期間が終了いたしました。慶應義塾大学大学院の全研究科の総力を結集し、文理融合教育プログラムを積極的に導入し、来るべき超成熟社会の持続的発展をリードできる次代の高度博士人材の育成を目的としたオールラウンド型「超成熟社会発展のサイエンス」と、理工学研究科と政策・メディア研究科が連携して、地球規模での環境の永続的維持と改善の実現をリードする“グローバル環境システムリーダー”の養成を目的とした領域型プログラムは、いずれも、そのユニークで優れた手法による教育成果が高く評価されています。今年度からは、慶應義塾が独自の力によって本プログラムを引き続き運営し、リーディング大学院プログラムにおける人材育成が継続的に行われています。さらには、本プログラムの運営を通して培われた豊富な経験や人脈等を生かして、さらなる高度大学院教育プログラムの設計とその実施に向けて、準備が進められています。

教育と研究活動における産学官の連携は、社会において益々重要視されています。慶應義塾は、かねてより産業界・実業界との連携が極めて強い組織として、我が国のみならず世界的にも高い評価を受けています。この慶應義塾の強みを生かした、教育研究活動のさらなる発展への様々な取り組みが進められています。その一例として、教育プログラムへの企業の実務家の積極的な参画が挙げられます。大学院におけるリーディングプログラムでは、産業界・実業界における豊富な経験をお持ちの方々にメンターとして教育プログラムに参画いただき、密度の濃い形で大学院生の教育にあたっていただいています。10学部と14研究科を有する総合大学の強みを生かして、文理融合型の教育プログラムを開発し、産業界・実業界との太いパイプを活用しながら、さらなる人材育成を進めていくことが、慶應義塾の今後における一つの方向と考えています。

研究面においては、大学・大学院における様々な研究成果を、産業界における実用化へ結びつけたり、新たな産業やビジネスの創成へのシーズとして積極的に提供し、そこに新たなイノベーションを誘発し、あるいは大学発ベンチャーを育成するための組織整備を進めています。実務家特任教員の雇用による、知財部門スタッフの充実やイノベーション活動全体を統括するマネージャなどの人的なパワーを充実させ、産官学の連携活動の強化に向けた塾内支援組織の充実に取り組んでいます。

理工学部・理工学研究科は、慶應義塾がこれまでに進めてきた、教育と研究の両面での改革における様々な場面で中心的な役割を担ってまいりました。昨年4月から新たに就任された伊藤公平学部長・研究科委員長長のリーダーシップのもと、理工学部・理工学研究科では、創立100年へ向けて種々の新たな取り組みが開始されています。担当常任理事としても、これらの活動をしっかりとサポートしてまいりたいと思います。

ご関係の皆様の引き続きのご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

理工学部国際交流

国際交流委員会委員長 竹村 研治郎



小尾晋之介前国際交流委員長が慶應義塾大学国際センター所長に就任された後を受けて、2017年10月より国際交流委員長を務めることとなりました。小尾先生をはじめ諸先輩がご尽力され発展してきた理工学部の国際交流事業を取りまとめる立場として身の引き締まる思いです。

2018年6月4日の日本経済新聞の一面に「日本の大学 瘦せる『知』 内向き脱し世界へ」といった記事が掲載されました。論文数、研究の質、研究層の厚み、論文の生産性といった指標で論評されておりますが、その背景には日本人が海外の研究者と協働することが少なくなり、国際的な知のネットワークから取り残されつつあるといった指摘がされています。こうした指摘が大学の本質を言い尽くしているとは限りませんが、日本の大学あるいは日本人学生の国際的競争力に対する評価の一端であることは間違いありません。理工学部や塾生がより一層国際的競争力を高めるべく、理工学部の国際交流事業を推進してまいりたいと思います。

理工学部の国際交流事業では塾生の海外への派遣、海外からの学生の受入に加えて、海外大学との研究連携や教育プログラムの共同運用などを行っています。たとえば、理工学部・理工学研究科学生の長期海外派遣（交換・ダブルディグリー）の現状を見ると、2017年度は合計19名の学生が新たに海外に挑戦しました。経済的負担や語学力不足、長期留学への不安など、学生によっては海外への挑戦に不安を感じるケースもあるようですが、理工学部ではこうした学生の不安に応じて様々なプログラムや支援制度を設けています。夏・春休みの数週間程度の在外研修や語学研修、半年～1年程度の交換留学や研究研修、1年以上に渡る留学で海外での学位取得を目指したダブルディグリープログラムなど、各学生の学習計画に応じたプログラムを準備し、語学能力やこれまでの海外経験にとらわれずに学部から大学院にかけて短期研修から長期留学へとステップアップできるようになっており、2017年度は短期派遣プログラムに43名が参加しました。また、2014年の理工学部創立75年記念事業の一環でスタートした「国際人材育成基金」や「国際人材育成資金」を中心として、海外に挑戦した学生に対する経済的な支援も行っています。海外留学した学生からの申請に対して内容を審査し奨励金を支給する制度ですが、2017年度は130件に合計1,600万円余りが支給されました。1人当たりの支給額は海外での活動内容や期間に応じて数万円～30万円程度です。このように、理工学部では学生が積極的に海外に挑戦できる土壌が充実してきています。

一方、2017年度に理工学部が新たに受け入れた海外からの長期留学生（交換・ダブルディグリー）は57名でした。2003年に英語のみで修了できる大学院先端科学技術国際コースがスタートしたのをきっかけに、多くの外国人学生が短期・長期に矢上キャンパスで勉強しています（2018年5月現在256名）。こうした状況は理工学部学生がキャンパス内で同年代の外国人学生と交流する機会の増加にも繋がり、海外に挑戦する良い刺激にもなっています。前述した理工学部が提供する多くのプログラムや支援制度を理工学部学生が十分に活用できるよう、学内での広報活動にも一層力を入れていきたいと思っています。

海外に挑戦した学生や海外からの学生がキャンパスに溢れ、周りの学生とも刺激し合いながら理工学部や学生の国際的競争力が高められるよう、国際交流事業を推進していきたいと考えています。塾員の皆様におかれましても、引き続き理工学部の国際交流事業へのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理工学部ホームページの 全面リニューアルについて

広報委員会委員長 深湯 康二



近年のスマートフォンの普及や、慶應義塾公式ホームページの全面リニューアルなどの流れを受け、理工学部ホームページ（HP）も約9年ぶりに全面リニューアルを行い、2018年2月初旬に日本語版（図1）を、続いて3月下旬に英語版を、それぞれ公開いたしました（<https://www.st.keio.ac.jp>）。

今回の全面リニューアルでの一番の変更点は、PCで閲覧した場合とスマートフォンで閲覧した場合に、それぞれ見やすいレイアウトとなる「レスポンス・デザイン」を導入したことです。HPリニューアル後のアクセス解析からも、PCからのアクセスとスマートフォン/タブレットからのアクセスがそれぞれ約半数という統計が得られており、どちらのデバイスでも閲覧しやすくなったことがうかがえます。

矢上キャンパスでの学生生活や研究風景等、写真をふんだんに使った明るいデザインに加えて、内容面でも理工学部の魅力を伝えるべく、各学科の紹介ページをはじめとして、それぞれのページにおいてコンテンツの一層の充実をはかりました。

大学選択を控えた受験生や学科選択を控えた1年生などに向けた新コンテンツである「在学生インタビュー」（図2）では、全11学科から1名ずつ現役の大学院生に登場して頂き、どんな高校時代と過ごしていたか、なぜ慶應理工のその学門を選んだのか、入学後の理工学部のイメージはどうだったか、どうして今の学科や研究室を選んだのか、現在の研究テーマとそのやりがい、修了後の進路などを、長編のインタビュー形式で紹介し、それぞれの学生の生き生きとした学生生活・研究生生活が感じられるコンテンツとなっております。

また、卒業生が学生時代の生活や卒業後の仕事内容を紹介する「塾員来往」、理工学部の研究室で行われている研究内容を分かりやすく紹介する「学問のすゝめ」、毎号ひとりの若手研究者をとりあげ、ユニークな角度から解剖する科学読み物である「新版 窮理図解」といった従来の人気定期コンテンツに加え、理工学部での最新の研究成果を発信する「Research Spotlights」（図3）を新たな研究系コンテンツとして立ち上げました。

新しくなった理工学部ホームページには、いまの慶應義塾大学理工学部の魅力がたっぷり詰まっております。ぜひこの機会に一度ご覧いただければと存じます。また、卒業生の皆さまにおかれましては、「塾員来往」の執筆依頼など、今後も理工学部の広報活動に関していろいろお世話になることもあるかと存じますが、その際にはどうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



図1 理工学部トップページ

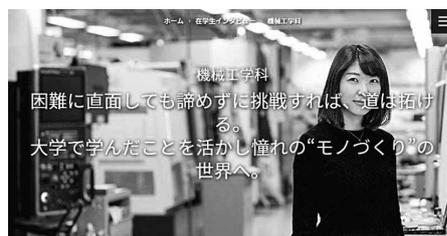


図2 在学生インタビュー



図3 Research Spotlights

IBM Q Network Hub @ Keio University の開設と今後の展望

量子コンピューティングセンター長 山本 直樹



1994年、P. Shor によって、量子コンピュータを用いれば、素因数分解に要する時間を劇的に短縮出来る（多項式時間で実行できる）ことが理論的に証明されました。これは現代の暗号技術の根幹を揺るがす発見であり、これが契機となって以来、世界中で量子コンピューティング研究が行われてきています。とくに近年、巨大企業（IBM, Google, Microsoft, Intel）やベンチャー企業（Rigetti, Ion Q など）が相次いで量子コンピュータ開発に乗り出し、まさにこの次世代計算機の研究開発競争は過熱の一途をたどっています。しかし実は、量子コンピューティングが真に効果を発揮する実社会の問題は、まだ判然としていないのです。事実、上述の素因数分解を実行するための量子コンピュータの実機実現は遙か遠い話であり、そのため、中規模（数十～数百量子ビット程度）で、しかもある程度の不完全さを許容する量子コンピュータに関するアルゴリズム研究が重要となります。しかし、このような中規模量子コンピューティングのソフトウェアサイドの研究はほとんど進んでいないのです。つまり、どのような実社会問題が中規模量子コンピュータで解決可能か、どの程度の計算時間の短縮が見込めるのか、そして具体的にどのように計算アルゴリズムを構築するのか、このような量子ソフトウェアに関する研究成果は世界的に見てもまだほとんど見当たらない状況です。

一方、2017年12月、慶應義塾大学は20量子ビットの中規模量子コンピュータ IBM Q を利用出来る、アジア地区唯一の量子コンピューティングネットワークのハブに選定されました（IBM Q 本体は米国ニューヨークの IBM ワトソン研究所内に設置されており、これにリモートでアクセスします）。ハブでは、大学教員・参画企業研究者・IBM 研究者が協働して、量子コンピューティングを実社会問題に応用するための研究を推進します。具体的には、JSR、三菱UFJ 銀行、みずほフィナンシャルグループ、三菱ケミカルの4社に参画いただき、材料・金融を中心とする様々な実問題に取り組みます。ハブのメンバーは各社から派遣される常駐研究者、理工学部と SFC の専任教員、量子情報科学はもちろん生物物理や計算機科学などを専門とする特任研究者、さらに人工知能などを専門とする IBM 研究者、となっており、他に類を見ない強力な陣容です。このように、大学と複数企業の連携からなる専門研究者たちが一つの場所（矢上キャンパス、主に34棟：写真）に集結し、中規模の実量子コンピュータ IBM Q 利用に基づく量子ソフトウェア研究を行う、という取り組みは世界でも初めてのことです。さらに、理工学部と SFC の様々な学科から学生が参加し、実社会問題に限らない、種々の魅力的な課題にチャレンジしています。

以上の取り組みによって、社会や産業界の発展に資する量子コンピュータ研究を推進するとともに、将来の IT 社会を担う Quantum Natives の育成を行ってゆきます。IBM Q Network Hub @ Keio University にどうぞご期待下さい。



慶應義塾先端科学技術研究センター (KLL) と 産業との関係



慶應義塾先端科学技術研究センター 所長 山中 直明

慶應義塾先端科学技術研究センター (KLL) は2000年に設立し、理工を中心とした産学連携の窓口として研究成果の社会還元へのサポートをしております。

まず、現状を分析しましょう。産官学連携による共同研究・受託研究は年間合計約400件、理工学部で受け入れている外部資金は約21億円、私学理工系としては最大規模であります。ところが、グローバルに見ると、米国の1st クラス (決してトップではありません) 大学の外部資金よりも2桁少ないのが現状です。昔の大学は、学問を学び教える場でしたが、特に社会還元を目指す研究にはある程度の資金が必要で、プロトタイプやフィールド実験まで大学がやる時代となってきました。つまり日本では投資を必要とする研究開発を大学が担えるか? という問題を抱えています。一方、明るい話題としては、KLL で受け入れている産官学連携による外部研究資金は最近の5年間で約150%増加しました。今後は、私立大学である特徴を考えて、国からの研究費のみではなく、民間からの資金が増加することを期待しています。

私の産官学連携の基本的な考えを述べます。「産官学連携」という言葉を改めて確認すると、「産 (産業界) はニーズや目的、そして資金を提供する。官 (政府等) はビジョンをもって日本の進むべき方向を示唆し、イノベーションのための長期的な政策とナショナルファンドとして資金投資を行う。学 (大学等) は、知と技術そして何よりも優れた人材を社会に提供する。」といったそれぞれの役割があると考えられます。この三者が結合すると今までになかった「革新」が生まれます。

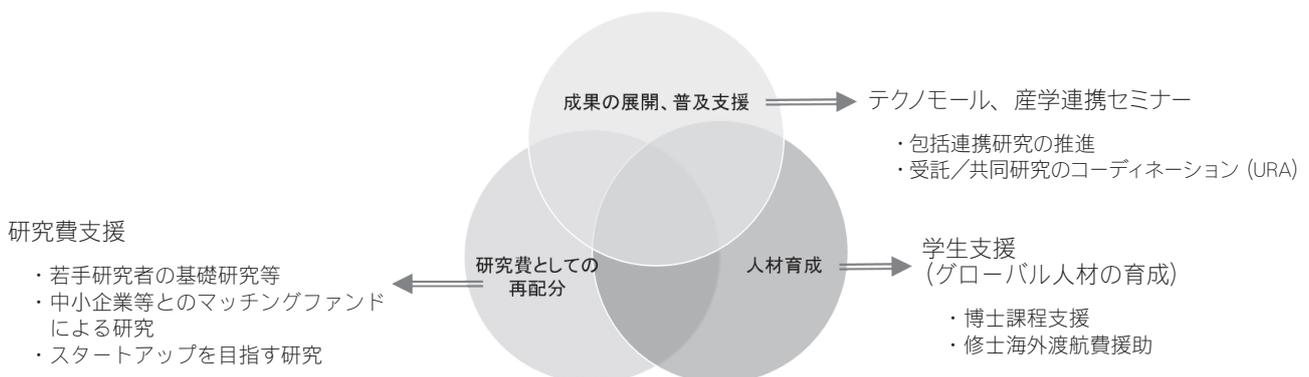
近年のその産官学連携の新しい特徴として、民間企業から委託を受けて行う研究の多様化が挙げられます。その例を一つ示します。大学と産業界で包括連携協定を結び、複数の研究テーマを複数の研究者で分担し、全体としてのベクトルを作ります。定期的に公開・非公開のシンポジウムや学生も入れたポスターセッション等の交流会を開き、テーマの発掘を行うことも特徴です。

KLL では、原則として外部研究資金の15%を一般管理費として徴収し、研究環境の整備・改善や研究活動の促進を目的とした経費にあてています。その用途の例は、図に示すとおりで、学生の支援 (博士、修士の海外渡航) や基礎研究を含む大学としての戦略的研究への助成に活用しています。

また、中小企業等とのマッチングファンドや起業を志す学生へのスタートアップ資金も提供しています。前者は中小企業等と共同研究を行う際に企業から頂く研究費の最大3倍の資金を助成し、初期の研究開発を加速させる制度です。

さらに、このようなKLLの研究推進・支援活動を活性化させるために、テクノモール等の産学連携のマッチングイベントや企業向けのセミナーを開催し、産学連携へのきっかけ作りを行っています。

今年は12月14日にテクノモールを開催いたします。昨年も来場者は2,000名を超えました。医工連携ブースを設けるなど新たな試みで活性化したテクノモールをぜひ、見に来てください。



教育への新しい風

清水 智子 (准教授) : 物理情報工学科／基礎理工学専攻 物理情報専修
専門：表面科学、走査型プローブ顕微鏡

2018年4月に物理情報工学科に着任いたしました。同学科を2002年に卒業し、カリフォルニア大学バークレー校で修士・博士課程を修め、その後理化学研究所と物質・材料研究機構という2つの国立研究所に勤めました。16年ぶりの矢上キャンパスは当時と変わらぬ温かさと心地よさに加え、最先端の研究を支援する環境と設備を整えていました。

私の専門分野は表面科学です。特に、走査型プローブ顕微鏡という物質表面の原子や分子を一つ一つ見たり、動かしたり、局所的な物性を測定したりできる実験手法を得意としています。環境問題や省エネに直結する触媒反応機構の解明や、次世代デバイスへの応用が期待される電子材料の探索などにつながる研究です。学生には、量子力学、物性物理学、物理化学、制御工学など多くの基礎科目が活かせる分野横断的な研究を楽しみ、世界で唯一無二の最先端研究を目指してほしいと思います。各人の夢や目標の達成に必要な知識と技能を在学中にしっかり身に付けられる教育を目指し務めてまいります。



野崎 貴裕 (専任講師) : システムデザイン工学科／総合デザイン工学専攻 システム統合工学専修
専門：パワーエレクトロニクス／モータドライブ／モーションコントロール

2014年3月に慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程を修了後、2014年4月から2015年3月までを横浜国立大学大学院工学研究院研究教員、2015年4月から2018年3月までを本学システムデザイン工学科の助教(有期)として過ごしまして、本年度より新たに専任講師として着任いたしました。学部生として大学に通っていた当時は、まさか自分自身が本学の教員になるとは想像だにしておりませんでした。社会人生活において自らの人生を捧げる場として、これ以上の幸せはございません。独立自尊の精神のもと学生一人一人の考えを尊重するとともに、半学半教の風土と自我作古の気概に満ちた研究室づくりを心掛けてまいります。自らの人生を大きく変えてくださった義塾に少しでも恩返しができるよう励んでまいりますので、今後とも社中の皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



栗原 聡 (教授) : 管理工学科／開放環境科学専攻 オープンマネジメント専修
専門：人工知能、複雑ネットワーク、自律分散システム

2018年4月に管理工学科に教授として着任いたしました。学生時代を矢上キャンパスで過ごした後、企業研究所や国立大学を経て、再び矢上キャンパスに戻ることにになるとは想像もしておりませんでした。建物などは大きく様変わりしても、矢上キャンパスらしい雰囲気は昔のままで安心いたしました。専門は人工知能です。まさに現在、3度目のブーム真っ最中の人工知能ですが、開発面では多めに盛り上がるものの、研究面ではその多くの研究成果は主に米国など海外研究によるものであり、まさに崖っぷち状態なのです。この状況を打破するには、個々の大学での努力は無論のこと、他大学や企業など多くの仲間との連携も極めて重要です。研究レベルの高さに加え、人的ネットワークを大切にする本学はその中核となるべき存在であり、日本としての人工知能研究の確固たる立ち位置を確立するためにも、慶應義塾の一員として頑張っていきたいと思っております。



機械工学科の近況

機械工学科主任 泰岡 顕治



昨年12月に前田知貴助教(有期)、本年6月に倉科佑太助教(有期)が退職され、4月よりチョンフンジェ教授(有期)、村松真由専任講師、伊藤幸太助教(有期)が着任されました。韓国延世大学の教授でもあるチョン教授には、慶應義塾大学と延世大学との交流の促進にご尽力いただいております。

本年2月には2年生8名が韓国釜山近郊にて、20名がタイバンコク近郊にて工場見学を行い、それぞれ釜山国立大学(韓国)とカセサート大学(タイ)の学生と交流しました。また、延世大学の学生を慶應に迎えた国内3社の工場見学も行いました。本年1月には、梨花女子大学の機械工学科学生を慶應に迎えて学生交流も行いました。昨年9月には機械系修士課程の学生向けに、シンガポールおよび韓国での研究交流、11月にはタイカセサート大学との研究交流も行いました。いずれも学生同士の交流を通して、互いに多くの刺激を受けました。本年度(2019年2月)も韓国ソウル近郊、タイバンコク近郊での工場見学と学生交流を企画しています。このような様々な機会を通してグローバルな視点で活躍できる人材育成を目指しています。

(機械工学科ウェブサイト <http://www.mech.keio.ac.jp/>)

電子工学科の近況

電子工学科主任 斎木 敏治



電子工学科ではこの1年間、教員の退職、着任、留学等はなく、そのような意味で落ち着いた状況で教育、研究にあたってまいりました。朗報としては黒田忠広教授が、高電力効率集積回路技術に関する長年にわたる教育・研究業績が高く評価され、福澤賞を受賞されました。

現在、電子工学科は決して人気がある学科とは言い難い状況です。しかし各教員が努力し、電子工学の奥の深さや多岐にわたる分野への貢献を丁寧に伝えることにより、学生は高いモチベーションを保って勉学、研究に励んでおります。その事実は、国内外での多数の受賞や博士課程進学という、目に見える形でも表れています。

その一方で、現在の学科の教育は時代や社会からの要請に適切にマッチしているのかという点を改めて見直し、実験科目を中心にリニューアルを進めております。マッチしているか否かの判断にあたっては、さまざまな業界でご活躍のOB・OGの方々のご意見が大変貴重であります。機会がございましたら、是非拝聴したく、よろしく願い申し上げます。

(電子工学科ウェブサイト <http://www.elec.keio.ac.jp/>)

応用化学科の進む道

応用化学科主任 藤本 啓二



今年3月に田中茂教授(環境化学)、中田雅也教授(天然物有機化学)および丹羽祐貴助教(有期)(生物化学)が退職され、4月には伴野太祐助教(有期)(有機物質化学)が専任講師に、磯由樹助教(有期)(機能材料デザイン)が助教にそれぞれ昇格されました。また、岩田歩助教(有期)(環境化学)、三浦一輝助教(有期)(生物化学)および宮崎翔助教(有期)(天然物有機化学)が着任されました。現在、このような新しい体制で応用化学の研究と教育に頑張っております。

これまで応用化学は、私たちの豊かな生活に寄与してきました。そして今、その生活を持続するために、資源、エネルギー、環境など切迫した重要課題に取り組み、応用化学の力で解決することが求められています。応用化学という学問とそれを修めた人材がますます重要となっています。それらを担う場として使命感を持って、みなさんの応用化学科をますます魅力ある場とし、次へつないでいく覚悟でございます。卒業生の皆様からの変わらぬ温かいご支援をよろしくお願いいたします。

(応用化学科ウェブサイト <http://www.applc.keio.ac.jp/>)

物理情報工学科の近況

物理情報工学科主任 佐藤 徹哉



田中敏幸教授の後任として学科主任を務めております。教室幹事の二瓶栄輔准教授、学習指導副主任の牧英之准教授と共に、教員25名で教育と研究に取り組んでまいります。

人事報告ですが、本多敏教授と横井康平准教授が3月末に退職され、新任として当学科出身の清水智子准教授と星野一生准教授が4月より着任しました。また井上正樹助教と門内靖明助教(有期)が専任講師へ昇格しました。当学科では今後数年にわたり退職される教員が続きますので、学科の方向性を熟慮して優秀な人材に加わっていただけるよう準備を進めています。

最近理工学部の量子コンピューティングセンター内にIBM Qネットワークハブが開設されたことが新聞等で報道され、注目されましたが、そのセンター長として当学科の山本直樹准教授が就任しました。今後当学科はこの分野の研究にも積極的に関わっていく予定です。各研究室での活発な研究の成果は学科ウェブサイトで紹介していきます。ご高覧賜りますようお願いいたします。(物理情報工学科ウェブサイト <http://www.appi.keio.ac.jp/>)

管理工学科の近況

管理工学科主任 枇々木 規雄



本年度も昨年度に引き続き、学科主任を務めております。教室幹事の稲田周平准教授、学習指導副主任の今井潤一教授とともに、活力ある学科運営を行います。

人事報告ですが、長年学科のために尽力されました櫻井彰人教授（情報科学）が本年3月末に退職されました。また、鵜飼孝盛助教（有期）が昨年9月末に防衛大学校に転出されました。一方、新任教員として本年4月より栗原聡教授（情報科学、電気通信大学より）、本年9月より山本零准教授（金融工学、武蔵大学より）、昨年10月より岩本大輝助教（有期）（統計学）が着任されました。

管理工学科は2019年3月に設立60周年を迎えますが、日本で管理工学という名称が残るのは本学科だけです。AIやデータサイエンスなど、今まで以上に本学科に関連する分野への期待が高まる一方で、「管理工学」とは何かを再度問い直しつつ、教員一同（22名）が協力して、教育カリキュラムの改善、社会に役立つ研究成果の創出に取り組んでいます。卒業生の皆様には、今後も管理工学科のためにご協力いただければありがたく存じます。（管理工学科ウェブサイト <http://www.ae.keio.ac.jp/>）

物理学科の近況

物理学科主任 江藤 幹雄



昨年度、光武亜代理専任講師（生体高分子シミュレーション）、関口康爾専任講師（スピントロニクス）が、それぞれ明治大学、横浜国立大学に移られました。いずれも准教授へのご栄転です。お二人の長年に渡る物理学科へのご尽力に感謝し、今後の更なるご活躍をお祈りします。

物理学科では、さらに佐々木博之教授（レーザー物理学）が今年度末、高野宏教授（統計物理学）が来年度末、相次いで定年を迎えます。スタッフの入れ替わりに伴い、学科が大きく変わりつつあります。

物理学を取り巻く環境も変化しています。量子コンピューターが商用化されました（理工学部では「IBM Q」にアクセスできる量子コンピューティングセンターが発足しました）。基礎研究の開始からわずか20年の技術です。人工知能を使った物理学の研究も始まっています。基礎と応用の距離が近づいた現在、基礎力のしっかりと身に付いた物理学科出身者の活躍の場は広がっています。

（物理学科ウェブサイト <http://www.phys.keio.ac.jp/>）

数理科学科の近況

数理科学科主任 井関 裕靖



田村明久教授の後任として、2018年度から学科主任を務めることになりました。今年度は教室幹事の曾我幸平専任講師、学習指導副主任の坂川博宜准教授とともに学科運営にあたります。

昨年度末に下村俊教授、田村要造教授が定年退職され、4月には種村秀紀教授、生駒典久准教授が着任されました。2010年度から8年間に渡って11名の定年退職者があるなど、教職員の顔ぶれも大きく変わって参りましたが、これから数年は定年退職者の予定もなく、現在の教員25名で落ち着いて研究、教育に取り組むことができそうです。

昨年度入学者から適用される数理科学科の新カリキュラムが今年度2年生の科目から実質的にスタートしたこともあり、数理科学科は新しい出発の年を迎えています。気持ちも新たに、数理科学の研究、数理科学を生かして社会で活躍する人材の育成に努めてまいりますので、今後とも数理科学科への変わらぬご支援をお願いいたします。

（数理科学科ウェブサイト <http://www.math.keio.ac.jp/>）

化学科の近況

化学科主任 垣内 史敏



化学科では、昨年度10月に教員2名の着任、2月に1名の退職、本年度4月に2名の昇任、1名の着任が御座いました。昨年10月に Tony Kung Ming Shing 教授（有期）と松丸尊紀助教（有期）が着任されました。本年2月に吉田真明助教が、3月には徳田栄一助教（有期）が退職されましたが、本年4月に角山寛規専任講師が准教授に、酒井隼人助教が専任講師に昇任され、伊勢川和久助教（有期）が着任されました。

Shing 教授（有期）は、総合教育科目、専門基礎科目、大学院科目を担当されており、学生が導入教育・専門教育の内容を英語で学ぶことにより、国際感覚を持つ研究者の育成を図っています。社会からのニーズが年々高まっている専門的な知識と経験を持つ研究者の育成についても順調で、今年度は18名が博士課程に在籍しています。

今後も世界に通用する教育と研究をとおして、グローバルに活躍できる逞しい学生の育成を目指します。皆様からの変わらぬご支援をお願いいたします。

（化学科ウェブサイト <http://www.chem.keio.ac.jp/>）

システムデザイン工学科の近況

システムデザイン工学科主任 青山 英樹



システムデザイン工学科は、2018年4月に若手の新任教員2名に参加して頂き、教授14名、准教授9名、専任講師2名、助教3名の体制で、教育・研究を担っています。システムデザイン工学科は、機械工学、電気工学、制御工学、情報工学、建築学をベースとして、将来リーダーとなる新たなエンジニアの育成を目指し設立され、23年目を迎えています。設立後も、時代の技術変革に適応し、産業界が現在そして将来必要とする人材を育成すべく、継続して教育内容(カリキュラム)の検討・改訂を進めてきております。各教員も、技術変革に積極的・柔軟に対応し、世の中が必要としているそして今後必要となる研究成果を発信し、システムデザイン工学のプレゼンスを高めるべく努力をしており、各方面で認められているところです。基礎教育・研究の両輪を駆動し、優秀な人材を社会に輩出すべく取り組んでおりますので、今後とも、ご支援をよろしくお願い申し上げます。
(システムデザイン工学科ウェブサイト <http://www.sd.keio.ac.jp/>)

情報工学科の近況

情報工学科主任 寺岡 文男



今年度は寺岡と高田眞吾教授が引き続き学科主任と教室幹事をそれぞれ務めます。学習指導副主任は今井倫太教授から重野寛教授に交代しました。新任人事としては豊田健太郎助教(有期)が着任しました。

情報工学科は今年度から新カリキュラムに移行しました。実質的には来年度の2年生から新カリキュラムが適用されます。新カリキュラムの特徴の一つは、2年生におけるプログラミングの入門教育を抜本的に見直し、「プログラミング基礎」という必修科目を新設したことです。当科目では全学生にRaspberry Piという小型コンピュータを配布し、Pythonという学習しやすく論理構造が明確な言語を教えることにより、論理的な考え方を習得させるとともにプログラミングの楽しさを体験させることを目的としています。また3年春学期の全科目にクォータ制を導入し、第2クォータから夏休みにかけて海外へのインターシップに行きやすくしました。
(情報工学科ウェブサイト <http://www.ics.keio.ac.jp/>)

生命情報学科の近況

生命情報学科主任 宮本 憲二



本年度から学科主任を務めることになりました。学習指導副主任の松本緑准教授と教室幹事の藤原慶専任講師とともに学科の運営にあっております。今年3月に広井賀子専任講師(有期)が退職されました。また、4月には山田貴大助教(有期)が着任され、藤原慶専任講師(有期)が専任の専任講師として任用されました。

本年度の学科分けでは、43名の2年生を受け入れましたが、女子学生の比率が約50%と高くなっています。4月には2年生歓迎会が矢上の生協食堂で開催されました。多くの学生と教職員が参加し、大いに盛り上がりました。

研究面では、インフル検出(佐藤教授、松原専任講師)、たんぱく質でナノ粒子(川上専任講師、宮本教授)、高性能蛍光マグネシウムセンサー(岡教授)、発酵する人工細胞(藤原専任講師、土居教授)、新リハビリ治療法(牛場准教授)など、トップジャーナルへの論文や新聞等への掲載が活発に行われています。

(生命情報学科ウェブサイト <http://www.bio.keio.ac.jp/>)

日吉の近況

日吉主任 萩原 眞一



KGRI「創造クラスター」は今年5月、主幹プロジェクトとして発足させた「AIプロジェクト」の活動拠点の1つとして、藤山記念館F11教室に「日吉AI・高度プログラミングルーム」を設置しました。同ルームを運営する委員会の指導の下、AI・ITに興味を抱く7学部の学生がF11教室に集い、そこで高度なプログラミング作業を行ないながら、国際大学対抗プログラミングコンテストに出場すべく、切磋琢磨することが期待されています。

また昨秋から進められていた日吉記念館の解体工事が今春終了し、6月には地鎮祭が執り行われ、2020年3月竣工を目指して、建て替え計画がいよいよ本格的に実施される運びとなりました。完成の暁には地上5階、地下1階建て、収容人員が約1万人の巨大施設が誕生することになり、日吉駅から银杏並木を通して望む景観も大きく変わることでしょう。

ハード面でもソフト面でも日吉はますます充実されつつあります。

基礎理工学専攻
～数理科学専修の近況～

基礎理工学専攻長
高野 宏



基礎理工学専攻では、今号より専修持ち回りで順番に紹介いたします。今回は、南美穂子・数理科学専修主任よりご紹介いただきます。

「数理科学」とは、数学および数学と諸科学との関係領域に構築された学問分野の総称であり、当専修での研究分野は、高度に抽象化された基礎数理分野から、諸科学への応用に直結する応用数理分野まで、代数学、幾何学、数理解析、確率論、統計学・機械学習、離散数学、計算数学を核として幅広い分野をカバーしています。

OLIS-ブルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座は2010年度よりご支援をいただき開講していますが、本年度も「生命保険概論」を春学期に、「生命保険数学特論」を9月初旬に集中講義として開講いたします。また、博士学生をはじめとする若手研究者と、諸科学や産業界とのマッチングの場として、産官学協働の下、日本数学会が中心になり開催されている「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」にも本専攻は協力組織として積極的に参加しています。

総合デザイン工学専攻
～研究教育ユニットとしての専修組織～

総合デザイン工学専攻長
岡田 英史



専攻が多様な研究分野を横断的に含む大きな組織であることから、専攻内に教員グループによる時限的な研究教育ユニットである専修が組織されています。

総合デザイン工学専攻は、科学とデザインの統合的方法論である、マルチスケール、マルチフィジクス、マルチアスペクトを活用し、新たな学問体系の構築を目指す「マルチディシプリナリ・デザイン科学専修」、機械工学、電気・電子・情報工学を中心に、社会・自然環境を含めた広義の環境内で最適にシステムを統合化、デザインし、新たな工学的価値を創造する「システム統合工学専修」、現代社会の基盤技術のひとつである電気電子技術のさらなる発展を推進することを目的に、最先端分野での未踏の材料・デバイス・システム技術の研究を行う「電気電子工学専修」、物性・構造解析を中心とする物理分野と材料合成が主眼の化学分野の物質研究を融合し、より広い視野から新物質や新機能をデザイン・創造する「マテリアルデザイン科学専修」、の4つの専修で構成されています。

各専修の特色を伸ばしつつ、専攻として新たな「デザイン」の創造に貢献したいと思います。

開放環境科学専攻
～環境エネルギー科学専修の近況～

開放環境科学専攻長
天野 英晴



開放環境科学専攻では昨年より5つの専修を順番に紹介いたします。今回は、堀田篤主任より紹介をいただきます。

環境エネルギー科学専修における研究・教育活動の一番の特徴は、分子レベルから地球環境まで、空間・時間スケールが極めて広い事象を取り扱う分野であることが挙げられます。当専修の近況を述べると、環境化学ご専門の田中茂君が2017年度でご退職し、名誉教授になりました。新任に関しましては、大気科学ご専門の岩田歩君が助教(有期)として当専修所属となりました。岩田歩助教は当専修の奥田知明准教授と同研究室にて、研究活動に勤しんでおります。また、有機分子システムご専門の伴野太祐君が、助教から専任講師に昇格いたしました。大きなプロジェクトといたしましては、当専修の植田利久教授と横森剛准教授らによる内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「革新的燃焼技術」が本年度で5年間の集大成を迎えます。

今後も、機械工学と応用化学の融合分野として、当専修はますます研究と教育を推進させ、世の中に大きく貢献してまいります。

矢上賞について



矢上賞 同窓会研究教育奨励基金による卒業生への表彰

同窓会研究教育奨励基金では理工学を原点として、これまでに社会的に顕著な活躍や、研究教育活動などをとおして多大な社会的貢献を果たされている卒業生を奨励するため、矢上賞の表彰事業を行っています。

18回目となる今年度は、9月29日(土)15時から、矢上キャンパス創想館において以下5名の方を表彰いたします。

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 高際伊都子 君 (数理科学科 1989年卒) | 渋谷教育学園渋谷中学高等学校 副校長) |
| 河内 幾生 君 (応用化学科 1987年卒) | 富士フィルム株式会社 知的財産本部 国際標準化推進室 主任技師) |
| 田中 正彦 君 (応用化学科 1981年卒) | ノーベルファーマ株式会社 研究開発本部 開発第3部長) |
| 中村 公泰 君 (機械工学科 1978年卒) | 株式会社日産オートモーティブテクノロジー 取締役会長) |
| 森山 雅之 君 (機械工学科 1982年卒) | 株式会社小松製作所 専務執行役員 マイニング事業本部長) |

また、当日はあわせて2017年度矢上賞(起業支援)の表彰を行います。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 東 和彦 君 (機械工学科 2013年卒) | 株式会社LTaste 代表取締役社長) |
|-----------------------|---------------------|

授賞式典ならびに講演会には参加費無料、事前申込み不要で参加していただけます。

詳細は理工学部ウェブサイト (<https://www.st.keio.ac.jp/students/ygprize/>) をご覧ください。

最近の就職活動および就職状況について

理工学部 就職担当委員長 今井 宏明

1. 2017年度 (2017年9月、2018年3月) 卒業・修了者就職状況

2017年度の就職活動は、ここ数年の安定した経済状況を背景に概ね順調に推移しました。学部卒業生の20%が就職(技術系46%、事務系54%)し、修士課程への進学率は75%でした。また、修士課程修了生の85%が就職(技術系72%、事務系28%)し、博士課程への進学率は9%でした。これらの傾向は概ね例年通りですが、修士課程の事務系就職者比率が昨年度よりわずかに増加しています。また、内定を得るにあたり学校推薦制度を利用した学生は学部で25%、修士で37%、就職者全体での平均値は34%でした。次ページに就職先企業一覧を示します。

2. 2018年度 (2018年9月、2019年3月) 卒業・修了者就職活動状況

就職活動日程では、採用選考の正式な開始は学部4年あるいは修士2年の6月となっています。しかし、3月以降に開始されるジョブマッチングと言われる配属希望部署での面談をとおして、多くの学生と企業がお互いに絞り込みを進めており、6月1日以前に、就職を希望する学生の6割以上が実質的に就職先を決めています。6月現在、企業が学生に正式に内々定を出し始め、就職活動の正念場を迎えています。

7月以降も内々定が得られない学生には、就職担当委員を中心に丁寧な就職支援を継続し、9月上旬には、大学院進学から進路変更する学生も含めた就職活動継続者向け企業研究セミナーを開催します。採用活動中の企業情報を提供するなどの支援を行いつつ、9月中には全員の進路が決まることを期待しています。

3. 2019年度 (2019年9月、2020年3月) 卒業・修了者向け就職支援

理工学部・理工学研究科としては、勉学と学術研究の時間を十分に確保して学生の実力を高めつつ、効率的に希望の進路に結びつくように就職支援を行っていく予定です。2019年度卒業・修了予定者については、ここ数年と同様に、学部3年あるいは修士1年の3月に採用広報活動開始、その3ヵ月後の6月に正式な選考開始となる日程を見据え、2018年10月より就職支援イベントを計画中です。就職活動の開始にあたり、学校推薦制度や理系の就職活動の特徴を伝えるとともに、「勉学と学術研究に励むことが最強の就活である」として、学生の本分である勉学や研究を優先しつつ、焦らずに地道に活動するように指導していきます。学校推薦制度の運用では、各就職担当委員が人事担当者と面談して企業側の求める人材や採用スケジュールなどの情報を得て、学生と企業との橋渡しを行います。企業の採用広報活動が開始される2019年3月上旬には、100社以上の有力企業において活躍している理工学部のOB/OGによる企業研究セミナーを開催します。本セミナーはOB/OGとコンタクトできる場として、例年延べ1,200名超の学生が参加する最大級の就職支援イベントで、効率的な企業研究と就職活動が進められるように配慮しています。

2017年度の就職状況

表 2017年度(2017年9月、2018年3月)卒業・修了者の2名以上就職先(学部・修士合計数)

就職先	計	就職先	計	就職先	計
キヤノン	34(9)	J F E スチール	3	ウォンテッドリー	2
エヌ・ティ・ティ・データ	17(5)	K D D I	3	京セラ	2
ソニー	16(2)	S A P ジャパン	3	近畿大阪銀行	2(1)
野村総合研究所	16(3)	花王	3(1)	クボタ	2
新日鉄住金ソリューションズ	15(6)	関西電力	3	ゴールドマン・サックス証券	2
富士通	15	コーエーテクモホールディングス	3	小松製作所	2
トヨタ自動車	14(2)	宇宙航空研究開発機構	3(3)	佐藤製菓	2
N T T ドコモ	12(4)	資生堂	3(2)	サントリーホールディングス	2
日産自動車	11(2)	清水建設	3(1)	島津製作所	2(1)
アクセンチュア	10(5)	スクウェア・エニックス	3(2)	シミック	2(2)
日本放送協会	10(1)	ダイキン工業	3	住友商事	2
本田技研工業	10(2)	大日本印刷	3	積水化学工業	2
日立製作所	9(1)	大和証券	3	積水ハウス	2(1)
三菱東京 U F J 銀行	9(1)	テレビ朝日	3(1)	ソニー L S I デザイン	2
新日鉄住金	8	デンソー	3(1)	第一三共	2
ソフトバンク	7(1)	東海旅客鉄道	3	チームラボ	2(1)
日本航空	7(3)	東ソー	3	千代田化工建設	2
パナソニック	7(1)	日本銀行	3(1)	テレビ東京	2(1)
味の素	6(1)	日本ユニシス	3	東京瓦斯	2
オリンパス	6	野村證券	3	東京急行電鉄	2(1)
キーエンス	6(1)	東日本電信電話	3(1)	日東電工	2
東レ	6(1)	フジクラ	3	日本技術貿易	2(1)
日揮	6	ブリヂストン	3(1)	日本総合研究所	2
日本電気	6	ベイカレント・コンサルティング	3	日本電産エレシス	2
日本アイ・ピー・エム	6	マツダ	3	日本マイクロソフト	2
三菱重工業	6	三井化学	3(2)	みずほ銀行	2(2)
三菱電機	6	三井住友銀行	3(1)	三井住友海上火災保険	2(2)
旭化成	5(1)	三菱ケミカル	3(2)	三井物産	2
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ	5	G C A	2	三菱自動車工業	2(1)
住友化学	5(1)	J F E エンジニアリング	2	三菱商事	2(1)
デロイトトーマツコンサルティング	5(1)	J X T G エネルギー	2	三菱総合研究所	2(1)
電通	5(1)	K A D O K A W A	2(1)	村田製作所	2
東京海上日動火災保険	5(1)	P w C コンサルティング	2	明治	2
L I X I L	4(2)	P w C 税理士法人	2	森永製菓	2
旭硝子	4	S M B C 日興証券	2	ヤフー	2
川崎重工業	4	T D K	2	ヤマハ発動機	2
信越化学工業	4	T O T O	2	ライオン	2
電源開発	4	あいおいニッセイ同和損害保険	2	その他就職・1名就職企業	256(50)
東京都	4(1)	アサツーディ・ケイ	2	合 計	800(152)
東日本旅客鉄道	4(3)	旭化成ホームズ	2		
ファナック	4	朝日新聞社	2(1)		
ボッシュ	4(1)	アビームコンサルティング	2		
リコー	4	イーピーエス	2(1)		
I H I	3	伊藤忠商事	2(1)		

合計内訳：学部194名(51名)、修士606名(101名)
 卒修者数：学部933名(159名)、修士711名(115名)
 ()は内数で女子

昨年との比較

上位6社：キヤノン(昨年28名)、エヌ・ティ・ティ・データ(同10名)、ソニー(同17名)、野村総合研究所(同13名)、新日鉄住金ソリューションズ(同11名)、富士通(同16名)

5名以上就職した企業への就職者数：311名、38.9%(昨年349名、41.4%)

2名以上68%(昨年70.9%)

公務員：11名(昨年8名) 中学高校教員：5名(昨年4名)

博士課程修了者・単位取得退学者の進路

修了者(63名)と単位取得退学者(23名)：計86名中、企業等への就職者20名(旭化成、出光興産、エイムネクスト、LTaste、構造計画研究所、GOSPA、JSR、トヨタ自動車、デンソーアイティラボラトリ、日本アイ・ピー・エム、日本ゼオン、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、日本精工、日立製作所、プログレス・テクノロジーズ、丸紅、三菱総合研究所、三菱東京UFJ銀行、三菱電機)、大学等(大学や

学術研究機関の有期ポスト、学振特別研究員を含む)への就職者17名、国家公務員2名、国外就職8名、フリーランス1名、就職活動中3名、在職ドクターの復職者17名、その他11名、未報告7名

留学生の進路

学部卒業者(9名)

日本にて就職2、進学6、その他1

修士修了者(39名)

日本にて就職7名、国外就職2名、進学6名、就職活動中7、その他16、未提出1

博士修了者と単位取得退学者(17名)

日本にて就職4名、国外就職5名、就職活動中1名、その他7名

受賞

受賞

- 松岡 由幸「日本工学会フェロー」
受賞日：2017年6月2日
授賞者：公益社団法人 日本工学会
- 川上 了史「2017年度日本蛋白質科学会若手奨励賞優秀賞」
受賞日：2017年6月21日
授賞者：一般社団法人 日本蛋白質科学会
- 山田 貴大「第1回慶應ライフサイエンスシンポジウム ポスター賞」
受賞日：2017年8月28日
授賞者：第1回慶應ライフサイエンスシンポジウム実行委員会
- 井上 正樹ほか「電気学会産業応用部門部門論文賞」
受賞日：2017年8月29日
授賞者：一般社団法人 電気学会産業応用部門
- 秋月 秀一「精密工学会技術奨励賞」
受賞日：2017年9月21日
授賞者：公益社団法人 精密工学会
- 滑川 徹「2017年度 計測自動制御学会論文賞」
受賞日：2017年9月21日
授賞者：公益財団法人 計測自動制御学会
- 荻原 直道ほか「2017年度 日本動物学会論文賞」
受賞日：2017年9月22日
授賞者：公益社団法人 日本動物学会
- 野田 啓「IEC1906賞」
受賞日：2017年10月23日
授賞者：国際電気標準会議
- 山崎 信寿「バイオメカニズム学会功労賞」
受賞日：2017年11月4日
授賞者：バイオメカニズム学会
- 藤代 一成「第16回 CG Japan Award」
受賞日：2017年11月11日
授賞者：一般社団法人 芸術科学会
- 志澤 一之
「日本機械学会創立120周年記念功労表彰 事業功労（貢献）」
受賞日：2017年11月17日
授賞者：一般社団法人 日本機械学会
- 柿沼 康弘「FA 財団 論文賞」
受賞日：2017年12月8日
授賞者：一般社団法人 FA 財団
- 小池 綾・柿沼 康弘・青山藤詞郎・大西 公平
「FA 財団 論文賞」
受賞日：2017年12月8日
授賞者：一般社団法人 FA 財団
- 山中 直明「2017年特別功労賞」
受賞日：2017年12月8日
授賞者：IEEE Communications Society, Communications Switching and Routing Technical Committee
- 片山 靖「第32回（2017年度）溶融塩賞」
受賞日：2018年1月31日
授賞者：公益社団法人 電気化学会溶融塩学会
- 山本 直樹「IOP Outstanding Reviewer Award」
受賞日：2018年2月24日
授賞者：Institute of Physics（英国物理学会）
- 石樽 崇明ほか
「第31回エレクトロニクス実装学会春季講演大会 講演大会優秀賞」
受賞日：2018年3月6日
授賞者：一般社団法人 エレクトロニクス実装学会
- 井本 正哉「2018年度日本農芸化学会功績」
受賞日：2018年3月15日
授賞者：公益社団法人 日本農芸化学会
- 閻 紀旺ほか
「第20回通算第28回（2017年度）精密工学会高城賞」
受賞日：2018年3月16日
授賞者：公益社団法人 精密工学会
- 石樽 崇明
「2017年度 エレクトロニクスソサイエティ活動功労表彰」
受賞日：2018年3月22日
授賞者：一般社団法人 電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ
- 山本 直樹
「2017年度 エレクトロニクスソサイエティ活動功労表彰」
受賞日：2018年3月22日
授賞者：一般社団法人 電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ
- 緒明 佑哉
「平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」
受賞日：2018年4月17日
授賞者：文部科学省
- 清水 智子
「平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」
受賞日：2018年4月17日
授賞者：文部科学省
- 村松 眞由
「2017年度（平成29年度）日本機械学会奨励賞（研究）」
受賞日：2018年4月19日
授賞者：一般社団法人 日本機械学会
- 渡邊 紳一「IAAM Scientist Medal」
受賞日：2018年5月15日
授賞者：International Association of Advanced Materials
- 笹瀬 麻「電子情報通信学会通信ソサイエティマガジン賞」
受賞日：2018年5月18日
授賞者：一般社団法人 電子情報通信学会
- 志澤 一之「平成29年度日本材料学会論文賞」
受賞日：2018年5月26日
授賞者：公益社団法人 日本材料学会
- 松岡 由幸「武藤栄治賞 Valuable Publishing 賞」
受賞日：2018年5月26日
授賞者：一般社団法人 日本設計工学会
- 山中 直明「功績賞」
受賞日：2018年6月7日
授賞者：一般社団法人 電子情報通信学会
- 藤代 一成「画像電子名誉会員・フェロー」
受賞日：2018年6月22日
授賞者：一般社団法人 画像電子学会
- 藤原 忍
「平成29年度 特別研究員等審査会専門委員（書面担当）」
受賞日：2018年7月31日
授賞者：独立行政法人 日本学術振興会

新任

●教授

機 械 工 学 科	チョン, フン ジェ (有期)	炭素繊維強化複合材料 / 生体医療工学	数 理 科 学 科	種村 秀紀	無限粒子系 / 確率微分方程式 / 浸透模型
管 理 工 学 科	栗原 聡	人工知能 / 複雑ネットワーク科学 / 計算社会科学			

●准教授

物 理 情 報 工 学 科	清水 智子	表面科学 / 走査型プローブ顕微鏡 / 分子界面	管 理 工 学 科	山本 零	金融工学 / 実証分析 / 企業評価
物 理 情 報 工 学 科	星野 一生	核融合ダイバータプラズマ / 低温プラズマ	数 理 科 学 科	生駒 典久	偏微分方程式 / 楕円型方程式 / 幾何解析

●専任講師

機 械 工 学 科	村松 眞由	固体力学 / マルチフィジックスシミュレーション	シ ス テ ム デ ザ イ ン 工 学 科	野崎 貴裕	パワーエレクトロニクス / モータドライブ / モーションコントロール
応 用 化 学 科	伴野 太祐	両親媒性分子 / ソフトマター / 有機分子システム	情 報 工 学 科	杉浦 裕太	ライフスタイルコンピューティング / 実世界インタフェース
物 理 情 報 工 学 科	門内 靖明	計測工学 / テラヘルツ波 / ヒューマンインターフェース	生 命 情 報 学 科	藤原 慶	人工細胞工学 / 合成生物学 / 分子生物学

●助教

機 械 工 学 科	伊藤 幸太 (有期)	バイオメカニクス / 医用画像 / 人間工学	化 学 科	伊勢川和久 (有期)	表面化学 / 触媒化学 / 放射光科学
応 用 化 学 科	磯 由樹	蛍光ナノ材料 / ナノコンポジット / 機能性材料	化 学 科	松丸 尊紀 (有期)	有機合成化学 / ケミカルバイオロジー / 免疫調節
応 用 化 学 科	岩田 歩 (有期)	大気科学 / 環境化学 / 雲物理学 / エアロソル工学	シ ス テ ム デ ザ イ ン 工 学 科	山下 忠紘 (有期)	メカノバイオロジー / 生体医工学 / マイクロ工学
応 用 化 学 科	三浦 一輝 (有期)	糖鎖生物学 / ケミカルバイオロジー / 生物有機化学	シ ス テ ム デ ザ イ ン 工 学 科	山本 詠士 (有期)	ナノ・マイクロ熱物質輸送 / 生物物理 / 分子動力学
応 用 化 学 科	宮崎 翔 (有期)	天然物有機化学 / 生物有機化学 / 植物ホルモン	情 報 工 学 科	豊田健太郎 (有期)	セキュリティ&プライバシー/ブロックチェーン/センサデータ解析
管 理 工 学 科	岩本 大輝 (有期)	経営分析 / 人的資源管理 / 実証分析	生 命 情 報 学 科	山田 貴大 (有期)	システムバイオロジー / 遺伝子制御ネットワーク / 数理モデル

昇格

●教授

電 子 工 学 科	田邊 孝純	フォトニックナノ構造 / 微小光共振器 / 省電力デバイス	数 理 科 学 科	坂内 健一	整数論 / 数論幾何
数 理 科 学 科	勝良 健史	作用素環 / C*環	シ ス テ ム デ ザ イ ン 工 学 科	満倉 靖恵	生体信号解析 / 脳波解析 / 脳神経科学 / 脈波学

●准教授

数 理 科 学 科	服部 広大	微分幾何学 / 複素幾何学 / ホロノミー群	化 学 科	角山 寛規	ナノクラスター合成 / ナノ触媒 / クラスター科学
数 理 科 学 科	林 賢一	統計科学 / 医学統計学			

●専任講師

物 理 情 報 工 学 科	井上 正樹	ロボ制御理論 / スマートグリッド / 航空交通管制	化 学 科	酒井 隼人	有機合成 / 超分子集合体 / 光エネルギー変換
---------------	-------	----------------------------	-------	-------	--------------------------

退職

●教授

	在職期間	専門	現職	
応 用 化 学 科	田中 茂	1980/4/1 ~ 2018/3/31	環境科学 / 地球環境問題 / 大気汚染	慶應義塾大学名誉教授
応 用 化 学 科	中田 雅也	1978/9/1 ~ 2018/3/31	天然物有機化学 / 有機合成化学 / 有機化学反応	慶應義塾大学名誉教授
物 理 情 報 工 学 科	本多 敏	1990/4/1 ~ 2018/3/31	計測工学 / 信号処理 / 流体計測	慶應義塾大学名誉教授
管 理 工 学 科	櫻井 彰人	2001/11/1 ~ 2018/3/31	人工神経回路網 / 学習理論 / 知識表現	慶應義塾大学名誉教授
数 理 科 学 科	下村 俊	1988/4/1 ~ 2018/3/31	数理解析 / 函数方程式	慶應義塾大学名誉教授
数 理 科 学 科	田村 要造	1984/4/1 ~ 2018/3/31	確率論 / 大偏差原理 / ランダム媒質	慶應義塾大学非常勤講師
シ ス テ ム デ ザ イ ン 工 学 科	大西 公平	1980/4/1 ~ 2018/3/31	ハプティクス / モーションコントロール / ロボティクス	慶應義塾大学特任教授
シ ス テ ム デ ザ イ ン 工 学 科	佐藤 春樹	1980/4/1 ~ 2018/3/31	エネルギー環境システム / 自然環境調和システム	慶應義塾大学名誉教授

●准教授

物 理 情 報 工 学 科	横井 康平	1981/4/1 ~ 2018/3/31	化学物理学 / 分子間相互作用 / 分子シミュレーション	
---------------	-------	----------------------	------------------------------	--

●専任講師

物 理 学 科	関口 康爾	2011/10/1 ~ 2018/3/31	スピントロニクス / マグノニクス / 磁性物理学	横浜国立大学大学院工学研究院准教授
物 理 学 科	光武亜代理	2001/4/1 ~ 2018/3/31	生物物理 / タンパク質フォールディング / シミュレーション	明治大学理工学部専任准教授
生 命 情 報 学 科	広井 賀子 (有期)	2009/4/1 ~ 2018/3/31	定量的生物学 / システムバイオロジー / 計算生物学 / in vivo oriented modeling	山口東京理科大学薬学部教授

●助教

機 械 工 学 科	倉科 佑太 (有期)	2017/4/1 ~ 2018/6/30	バイオメディカルデバイス / 超音波 / マイクロ加工	東京工業大学物質理工学院材料系助教
機 械 工 学 科	志村 啓 (有期)	2016/4/1 ~ 2018/3/31	高エネルギー物質 / 固気二相流 / 燃焼	
機 械 工 学 科	前田 知貴 (有期)	2015/4/1 ~ 2017/12/31	高分子材料 / 合成 / ナノ・マイクロ構造解析	茨城大学フロンティア応用原子科学研究センター助教
応 用 化 学 科	丹羽 祐貴 (有期)	2015/4/1 ~ 2018/3/31	糖鎖生物学 / 細胞生物学 / 分子標的治療	
管 理 工 学 科	鵜飼 孝盛 (有期)	2016/4/1 ~ 2017/9/30	オペレーションズ・リサーチ / 数理最適化 / 都市解析	防衛大学校情報工学科講師
化 学 科	井貫 晋輔	2016/4/1 ~ 2017/6/30	有機合成化学 / 天然物合成 / 生物有機化学	京都大学大学院薬学研究科助教
化 学 科	徳田 栄一 (有期)	2015/4/1 ~ 2018/3/31	生化学 / 神経病理化学 / タンパク質化学	徳島文理大学薬学部講師
化 学 科	吉田 真明	2011/4/1 ~ 2018/2/28	水分解光触媒 / 赤外分光 / 放射光分光	山口大学工学部応用化学科准教授
大学院理工学研究科 (KIPAS)	春日 翔子 (有期)	2016/4/1 ~ 2018/2/27	計算論神経科学 / 運動学習 / ロボットリハビリテーション	

追悼

下郷 太郎 先生

名誉教授下郷太郎先生が2018年7月22日に逝去されました（享年89歳）。先生は、1954年に本大学工学部機械工学科をご卒業、本大学院工学研究科博士課程を経て、1959年に管理工学科兼任講師に就任されました。その後、1961年に機械工学科専任講師に就任され、1965年学位取得後、1972年には教授に就任されました。先生は機械システムの不規則振動、耐震設計、構造力学、振動制御に関する学問分野を先導してこられ、1981年に日本機械学会に研究会を設置され、1985年には「耐震設計と構造力学」を出版されました。また、現在、隔年で開催されているアジアパシフィック振動会議の礎を築くとともに、1988年に京都国際会議場で開催された第9回世界地震工学会議では財務部会副主査としてこれを支えました。同年には日本機械学会副会長、1991年には日本アカデミー理事を歴任されています。1993年に本大学を退職後は、1999年まで神奈川工科大学教授として教育と研究にご尽力され、2007年には、日本機械学会誌に「衝撃制御の最近の理論と応用」を執筆されました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、振動と制御への多大な功績に深く感謝申し上げます。（システムデザイン・マネジメント研究科教授 西村秀和）

平林 義彰 先生

元助教平林義彰君が2018年1月6日に73歳で逝去されました。同君は、慶大理工学部の「化学実験」を起こし、練り、磨き上げ、現場で陣頭指揮をとり、実に三十余年にわたり化学実験に貢献しました。とりわけ、来日して日の浅い留学生に心を配り、授業前の早朝や放課後に留学生らを対象にプライベートの補習を続け、また、彼らの理解の一助にと、「科学技術日本語案内」（共著、慶應義塾大学出版会）やビデオを著しました。それらの功績により2009年矢上賞を受賞しました。平林君のボランティアの実践は、化学実験に留まりません。彼は、ネパールに学校を寄贈し子供たちを励まし、生まれ育った大森の町の振興や歴史の伝承に尽力し、工学部24期の委員や幹事として諸行事を盛り上げるなど滅私の活動に励みました。奉仕の締め括りは、医療の進化を願っての献体でした。慎ましくも光輝みてる塾員、平林君のご冥福をお祈りいたします。（名誉教授 川口春馬）

若林 信義 先生

名誉教授若林信義先生は、2017年5月12日に79歳で逝去されました。先生は東京大学理学部物理学科を卒業後、東芝勤務を経て米国アイオワ州立大学でPh.Dを取得し、オークリッジ国立研究所の固体物理部門に勤務されました。ここでは、原子炉から取り出した熱中性子を物質で散乱させ、その物質の励起状態を調べる研究（中性子散乱）を数多くされました。中でも、遷移金属の格子振動を調べた研究は世界的に有名です。慶應には物理学科の設立と同時に就任され、中性子散乱とは相補的な実験手段であるX線回折による研究を開始し、中性子散乱のアイデアも生かして多くの成果をあげられました。慶應における先生の講義や研究指導は用意周到で非常に丁寧でしたが、常に出来る限りの事を尽くすという先生の研究教育に対する姿勢が現れていたと思われます。一方、趣味では先生の落語好きは学科内で有名でした。そのせいか、先生と雑談をしている時、いつの間にか私自身も落語の世界に入り込んで話しているように感じたことも二度や三度ではありません。真摯であり、またユーモアに富んだお人柄をしのび、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。（名誉教授 田島圭介）

茅 幸二 先生

名誉教授茅幸二先生が2017年10月30日に81歳で逝去されました。先生は1966年に東京大学大学院理学系研究科をご修了後、理化学研究所研究員、東北大学助教授を経て、1981年に慶應義塾大学工学部を理工学部に発展改組するに際して、新設の化学科教授に就任されました。同時期に化学科には斎藤、山村、土橋、荒牧らの教授陣が着任し、基礎学術から世界をリードする研究の推進と、研究人材の育成に邁進されました。先生のご専門は物理化学で、レーザー分光の手法開拓や、原子や分子の集合体、クラスターの基礎学術の発展に尽くされました。1999年以降は分子科学研究所、理化学研究所中央研・和光研の長を務められたほか、超高速計算機を基礎科学に活用する事業の重責を担われ、日本化学会賞（2001年）、文化功労者（2005年）、瑞宝重光章（2013年）などの数々の顕彰を受けられました。卒業生はもちろん、教職員、研究者にも幅広く慕われていた包容力の豊かなお人柄を偲びつつ、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。（化学科教授 中嶋 敦）

光を止めることはできるのか



電子工学科 田邊 孝純

私は講演の冒頭に、次のような問いかけをすることがあります。「世の中に『ひかり』よりも速いものはありますか?」と。そして、「答えは『のぞみ』です」と解答を披露すると、一瞬の静寂ののちに、聴衆席からはまばらに笑い声がします。光は世の中で最も高速なものであると聴衆の誰もが知っているからこそ、この冗談が成り立つわけです。

このように誰もが知っている通り、光は高速であり、それが長所の一つです。こうした特徴のおかげで、光は長距離の大容量通信において重要な役割を果たしてきました。光ファイバによる長距離光通信技術は、今日の高速度インターネットを支える技術として必要不可欠です。しかしその一方で、光を単純な伝送媒体としてだけでなく、集積回路を駆使した高度な情報処理に用いようとする、光の持つ高速性があだとなってしまいます。例えば、信号処理を高度に実現するには、メモリが必要となりますが、光は本質的に高速なので止めたり遅くしたりすることが難しく、簡単には高性能な光メモリを実現することはできません。光を止める技術の開発は光信号処理の実現には必要不可欠ですが、皆さんも一度は聞いたことがある「光速度不変の原理」を思い出せば、それは非常に難しいチャレンジであることが分かります。光速度不変の原理は、真空中では光の速度は変えられないということを言っています。

それでは一体どのようにして光を止めるのでしょうか？ 光速度不変の原理は真空中の話なので、材料中で光を操ればよく、光の速度を遅くするために、高い屈折率の材料中を伝搬させるか、鏡を使って光を反射させる微小な容器を用意すればよいわけです。

皆さんが洗面台で目にするような鏡は金属反射を用いています。この鏡を対向させて光を閉じ込めればよいのですが、こうした鏡を用いたのではあっという間に光が減衰してしまいます。一見反射率が高いと思われる金属鏡ですが、光は速いので、鏡と鏡の距離を短くすれば単位時間当たりの反射回数はとてつもなく大きくなります。1回あたりの反射率はある程度高くとも、光はすぐに減衰してしまいます。そこでもっと性能の良い閉じ込め方法が必要となります。そこで用いられるのが、全反射と呼ばれる光の反射方法です。

全反射はプールで泳いでいるときに水中から水面を見上げるとキラキラ輝いて水面の外が見えなくなる現象としてよく知られています。全反射が起きると光はほぼ100%反射するので、それを用いて光を閉じ込めると極めて高い性能の「光を閉じ込める容器」が開発できます。この容器のことを「微小光共振器」と呼びます。

微小光共振器を用いると、光メモリだけでなく、光の波長変換素子、光周波数コム光源と呼ばれる新しい光源や、低パワー全光スイッチなど様々な高機能光素子の実現できます。光を止めたり遅くしたりするチャレンジは、物理学上も面白いだけでなく工学的な応用に直結します。読者の皆さんも、物理と工学のエキサイティングな境界領域に関わる研究者の気分を少しは味わっていただけたでしょうか。



図1 実験の様子

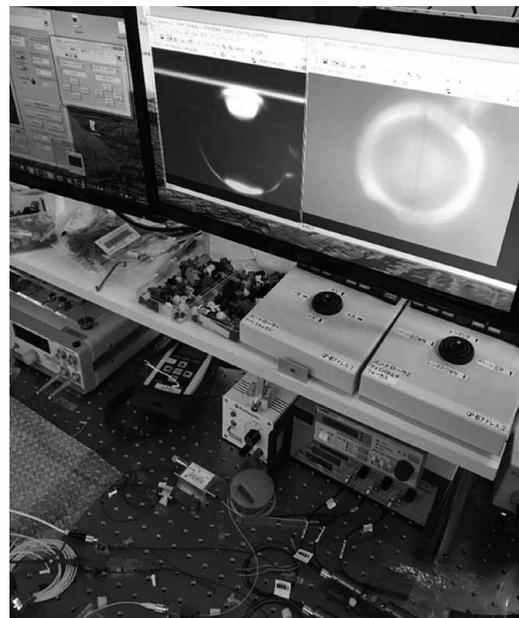


図2 実験装置

日吉は今



フランス語教育2.0

小林 拓也

「第二外国語はあまり身につかない」という一般的な思い込みは、自身の経験を語る周囲の大人たちを通し、若い世代にも広まりやすいものです。こうした負のイメージを一掃すべく、理工学部フランス語教室では、ここ数年様々な改革に取り組んでいます。数値化可能な、ふたつの事例をご紹介します。

ひとつは、「学部卒業までに実用フランス語検定の準1級、大学院修了までに1級を取得」という目標と、そのためのカリキュラムの設置です。受験データの一括管理や分析、後述のフランス人 TA を活用した積極的な支援等も行い、学生たちのモチベーションアップという、最も嬉しい効果が出始めています。2016年度からの導入後4回の試験（毎年6月と11月）では、総計で準1級1名、2級11名、準2級48名、3級99名、4級98名、5級6名の合格者を出すことができました。

もうひとつは、学部国際化の一翼を担う、フランスの名門 Écoles Centrales とのダブルディグリープログラムの後方支援です。平均して毎年12.8名が来塾するフランス人学生向けには、TAとして雇用する仕組みを整えたり、今年度は山梨での田植えとホームステイを体験する機会を提供したりするなど、矢上での2年間がより充実したものとなるような多様な取り組みを行っています。また、平均6.2名の慶應側派遣生には、フランス政府給費留学生試験を受験することを強く勧め、そのためのサポートを行っています。2015年度から本格的な指導を始め、3年間で計12名が合格、今年度も数名がチャレンジする予定です。両者交流の機会となる OFJ という日仏学生組織も、週2回の会話練習や週末のピクニック等、学内外で様々な活動を行っています。

日本語でも使われるフランス語の単語に「ルネサンス」がありますが、理工学部のフランス語教育は、今まさにその時期を迎えています。どうぞご期待ください。À très bientôt !



第19回矢上祭の開催について

本年も矢上祭の時期が近づいて参りました。

矢上祭は今年で19回目を迎えます。多くの塾生、教職員や学校関係者、企業や地域住民の方々のご支援に深く御礼申し上げます。

第19回のテーマは「カーニバル」です。普段は物静かな矢上キャンパスを、老若男女が楽しめるカーニバルのような空間に演出いたします。

実験を体験できる科学館や研究室ツアー、キャンパスライフの相談ブースといった、楽しみながら理工学部に触れられる機会を例年以上に用意しております。また、縁日やミス・ミスターコンテスト、有名歌手のライブやトークショー、グラウンドでの花火など幅広い方々にお楽しみ頂ける企画も充実させております。

実行委員一同、万全の体制で皆様のご来場をお待ちしております。是非お越しください。

日時：2018年10月6日（土）12:15～19:00、7日（日）10:00～19:00

場所：矢上キャンパス

矢上祭ウェブサイト：<http://yagamifestival.com/>



KEIO TECHNO-MALL 2018（第19回 慶應科学技術展）開催について

慶應義塾先端科学技術研究センター（KLL）では、理工学部・理工学研究科における研究成果を社会に還元し、産業界との連携を強力に推進することを目的として、KEIO TECHNO-MALL（慶應科学技術展）を開催いたします。本年も実物や実演を重視した展示により新しい研究成果を積極的に発表していくほか、学外から講演者を招いてのトークセッションイベント等、多彩で魅力的な内容を予定しております。ご多忙とは存じますが、多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日時：2018年12月14日（金）10:00～18:00

場所：JR有楽町駅前 「東京国際フォーラム 地下2階（ホールE2）」

※ 詳細はKLL ホームページ (<http://www.kll.keio.ac.jp/>) をご覧ください。